

## 保育者が対応にとまどう、こどもと保護者への具体的な対応

福岡県保育協議会職員専門研修会

2022年11月21日

野藤弘幸, Ph.D.

### 【対応を考える】

- 「危険」が理解できないようで、繰り返し、高い場所に登る、飛び降りる。
- 家庭では排泄できるが、園では拒む。
- 噛んで食べない。
- 自分の思い通りにできないと、大声を出す。
- 周りの状況や、ひとの気持ちを敏感に感じるようで、気持ちを出せない。
- こだわりが強く、好きなおもちゃに執着し、独占する。他児が触ると大声で止める。
- 集団活動に入ろうとしない。
- やりたいことだけする、物を投げる、ひっかく、叩くなど、個別のかかわりが必要なこどもが、ひとつのクラスに複数いることで、保育が成り立たない。
- 特定の他児から、繰り返し、作品を壊された、叩かれたこどもが、親に話している。
- 発達に遅れがあり、集団活動に沿えないが、保護者は同じように希望する。
- 保護者に伝えると、うえのこどもも同じだったが、問題はない、と言う。

## 【こどもの行動を、3つのキーワードで理解する】

### ① 注意力

- ・ 同時にいくつものことに注意を配って、段取りをとる力
- ・ 時間をかけて取り組み続けることは、結果ができるまでやり続けること、それは、結果まで待つ気持ち＝我慢する気持ち＝時間の感覚

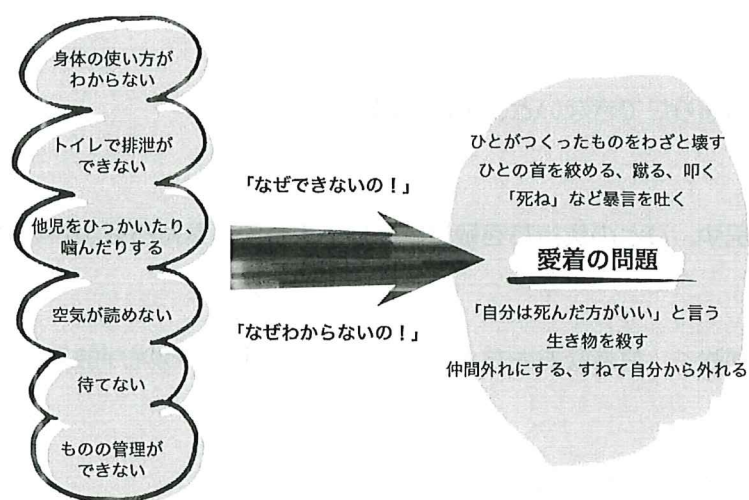
### ② 感受性

- ・ 身体の外を感じる感覚（見る、聞く、触る、におう）
- ・ 身体の中を感じる感覚（味わう、動く、生理的感覚、気持ち）

### ③ 身体のリズム

- ・ 身体を落ち着けるリズム と 身体を活発にするリズム
- ・ 身体の外を感じる > 身体の中を感じる だと？

## 【こどもの行動の問題と愛着の問題】



『野藤弘幸：発達障害のこどもをいき詰ませない保育実践  
すべてのこどもに通じる理解と対応、郁洋舎、2021.』より

### 【講師紹介】

野藤弘幸（のとう ひろゆき）

作業療法学博士。常葉大学保健医療学部教授を経て、乳児期から青年期のこどもと保護者、そこに関わる保育者への研修を行う。

著作に、「発達障害のこどもをいき詰ませない保育実践～すべてのこどもに通じる理解と対応（郁洋舎）」、「こどもの対応に困ったときに読む（エイデル社：げ・ん・き、連載中）」がある。

野藤弘幸オフィシャルホームページ <https://www.hattatsu-hoiku-notoh.com/>